

令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	どの学年も基礎・活用ともに概ね目標値を上回っている。1年では「耕す」、2年では「興奮」と画数の多い漢字を書けない傾向にある。これは語彙力不足とともに学習に対する粘り強さの欠落が原因と考えられるため、授業において意識的に取り上げ、語彙を増やす工夫をしていく必要がある。1年では文学的文章の問題が、2年では説明文の文章問題のポイントが下回っている。どの学年においても、条件に合わせて解答する力を育成する指導が必要である。
社会	1・2学年で基礎・活用ともに目標値を下回っている。1学年は歴史・公民分野の目標値を下回っているため、より関心を高めるような教材を使って意欲的に学べるような工夫が必要である。2学年は歴史的分野の目標値を大きく下回っているため、生徒自身が歴史の事象について興味・関心をもち、考える力を育成できる授業を展開できるように考えて授業準備を行っていく。3学年では、全体的に目標値を上回っており、特に苦手意識の高い「知識・技能」の観点で繰り返し基礎を確認する習慣を取り入れていく必要がある。
数学	1年生においては、基礎・活用共に目標値を上回った。2年生は活用・3年生は基礎の部分で目標値を下回った。領域別に着目すると、2年生も3年生も「数と式」の内容において目標値を下回っている。基礎的な計算の定着が不十分である生徒がいると考えられるので、既習事項との関わりを意識しながら授業を展開し、授業内で計算などの基礎的な内容につまづいている生徒がいた場合に支援できるよう、習熟度別授業を活用していくことが必要である。
理科	特に2・3年生で基礎問題の正答率が高くなかったため、今後単元の導入には、生徒が興味・関心を引くような動画や実験・観察、発問を取り入れていく。そして、理科の基礎・基本の定着を図るために、「1問1答形式の確認テスト」の実施や授業内で既習事項の確認などをしていく。定着状況を教員が把握することで、授業に創意工夫をしていく。また、思考力・表現力を高めるために授業内で既習事項を活用して問題解決を行い、グループで意見交換をする場面を増やしていくことが必要である。
英語	1年生で「アルファベットの書き」が区平均を下回っているのは問題である。小学校と連携して向上させる必要がある。2年生は、多くの問題で区の平均を下回っている。「主体的に取り組む態度」の向上に取り組むことで、「思考・判断・表現」も引き上げられるはずである。、3年生は2つの項目以外はすべて区の平均を上回っている。各学年ともに、他者とコミュニケーションをとるための言語としての英語を、何のために学んでいるかを踏まえて、使う場面を増やしていかなければならない。

本校が生徒に育成したい力
①人間尊重の精神を基盤として、心身ともに健康で国際感覚を持ち、将来の夢に向かって努力する人間力の育成を目指す。 ②基礎・基本を確実に習得させ、それを活用するための思考力・判断力・表現力育成を図る。 ③主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かして自らを高めようとする力を育成する。 ④生徒の言語活動を充実させ、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣を確立させる力を育成する。

校内における学力向上推進体制
①基礎・基本の定着のため、各教科・各授業でその授業の振り返りを行う。 ②各学年・各教科で「滝紅中 授業スタイル(授業規律)」を実践する。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
①数学において、習熟度別 少人数授業を行い、生徒の学習状況に応じて個に応じた学習指導を展開する。 ②言語活動を全教育活動を通して行い、コミュニケーション能力の育成を図る。 ③きたコンを活用した自学自習の調整と促進。	①授業時数の確保を徹底し、学習時間を保証する。 ②学習支援員やパワーアップ講師を活用し指導の充実を図る。 ③「朝の読書活動」の時間を設定し、本を読むことの楽しさと学ぶ意義を理解させる。	①ギガスクール構想に基づき、きたコンを活用した授業改善について校内研修会を行い、授業力の向上を図る。 ②巡回訪問等の機会を利用し、魅力ある授業研究を行い工夫改善をする。	①定期考査までの期間を補うため適宜確認テストなどでこまめに評価活動を行う。 ②生徒のアンケートや学校評価アンケートなどを活用し、適宜授業改善を図り、魅力的な授業の工夫を行う。	①家庭学習の習慣を身に付けさせるために、学校と家庭の連携を密にする。 ②きたコンやHP・学校便り等で情報を発信する。

本校の教育目標

学び考える人
優しく心豊かな人
鍛え努力する人

学力向上にかかわる経営方針

重点目標
課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成する授業を実践する

(1)校内研修会を活用した授業改善
(2)学校ファミリーを基盤とした幼小中一貫教育の推進